

# 栽培漁業技術総合開発研究事業－I（トラフグ）

津本欣吾

## 目的

本県の主要な栽培漁業対象種であるトラフグについて、放流効果の把握と放流効果向上に係る知見の収集を目的とする。伊勢湾放流群の放流サイズの小型化及び熊野灘放流群の適地放流による資源添加効率向上によりトラフグ放流事業の効果的な推進を図る。

なお、結果の詳細は関連報文に報告したので、ここではその概略を記載する。

## 方法及び結果

### 1. 放流実績

- ・伊勢湾における適正放流サイズを明らかにするため、東海ブロック共同放流として、6月14日にALC標識を装着した平均全長5.5cmのトラフグ種苗を伊勢市有滝地先に105,000尾放流した。
- ・上記とは別に本年度県内に放流されたトラフグ種苗（無標識）は287,300尾であった。

### 2. 漁獲実態調査

- ・0歳魚を対象とする小型底曳網、1歳魚以上を対象とする延縄について漁獲統計調査を実施した。
- ・漁獲物調査とイラストマー標識魚の発見は、有滝・安乘市場を主体に実施した。
- ・まき網による春季のトラフグの混獲はみられなかった。まき網による産卵期のトラフグ親魚の漁獲は平成18年以降みられていない。
- ・小型底曳網の10月から3月までのトラフグ0歳魚の推定漁獲量は164kgで、不漁であった前年（155kg）とほぼ同程度の低調な漁獲量となった。
- ・延縄漁獲量は26.4トンと、近年では比較的低水準であった前年（35.7トン）の74%と低調な漁況となった。単価は近年では比較的高めに推移し、漁獲金額は1.5億円と前年（1.8億円）の85%となった。

### 3. 放流効果調査

#### 1) 小型底曳網

- ・ALC耳石標識を指標とする三重県漁業者によるH23年放流群の0歳魚での回収率は0.08%と推定された。また、静岡県が伊勢市有滝地先に放流した鰭カット標識魚の回収率は0.03%と推定された。

#### 2) 延縄

- ・イラストマー標識を指標とした、県内延縄による過年度放流された各放流群の回収率は、H22伊勢市共同放流群が2.68%、矢作川河口沖放流群が1.29%、H21今一色放流群が0.24%、伊勢市共同放流群0.10%と推定された。また、静岡県が伊勢市有滝地先に放流した胸鰭カット標識魚はH22放流群が1.23%、H21放流群が0.86%と推定された。
- ・安乘地区内の旅館6軒に依頼し、調理時に採集した耳石1,110サンプルを観察した結果、合計116サンプルからALC標識が確認された。ALCを指標とした回収率はH22伊勢市41mm群が1.49%、H21伊勢市34mm群が0.04%、H21伊勢市45mm群が0.03%、H21伊勢市75mm群が0.23%と推定された。

#### 4. 放流魚の馴致過程の解明

- ・平成23年6月14日に伊勢市有滝地先に放流した共同放流群について、放流後の摂餌状況や成長等を把握するため、放流地点から伊勢湾につながる外城田川河口域において、砕波帯ネット等を用いた追跡調査を実施した。
- ・調査対象放流魚は放流15日後の6月29日まで採集され、採集尾数の合計は75尾であった。
- ・採集された放流魚のうち30尾の胃内容物分析を実施した。空胃個体の出現率は放流1日後では60%と高いが、2日後には10%程度に減少した。期間をとおして甲殻類が多く食べられていたが、多様な生物を複合的に利用していることがわかった。

## 関連報文

平成23年度全国トラフグ栽培漁業技術開発検討会資料 大分県・愛媛県・山口県・佐賀県・三重県・静岡県・愛知県・石川県・秋田県・（独）水産総合研究センター屋島栽培漁業センター・能登島栽培漁業センター・南伊豆栽培漁業センター